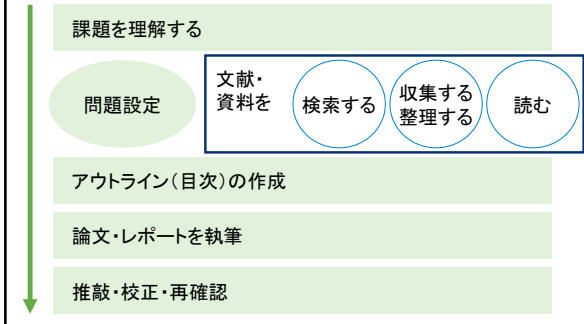


論文執筆の流れ



だが、無数の文献の中から、何よりも**知っておくべき**

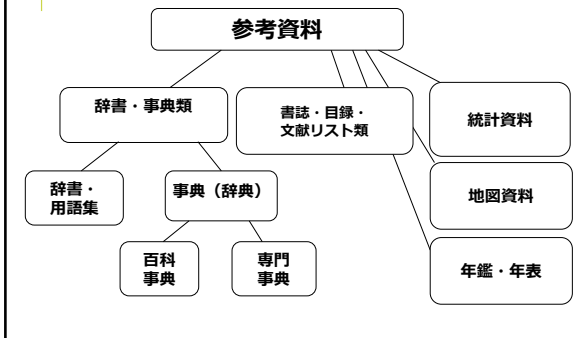
文献は、どうやって探す？

- 1) 誰もが知っている「**基礎文献**」
(**参考資料**から調べる)
- 2) 最新情報
(インパクトファクターの学術記事～後々の授業で！)

参考資料とは？

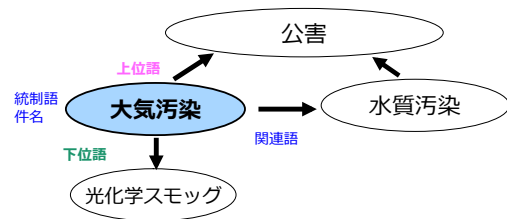
評価が確定した事項や語彙をキーワードに、「通読」するのではなく、「参照」する、「引く」ことを想定して作成された資料（例えば百科事典類）

「参考資料」の分類と種類

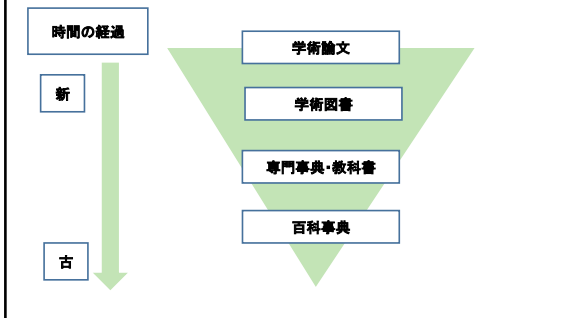


「何を探したいか」のキーワードと構造化

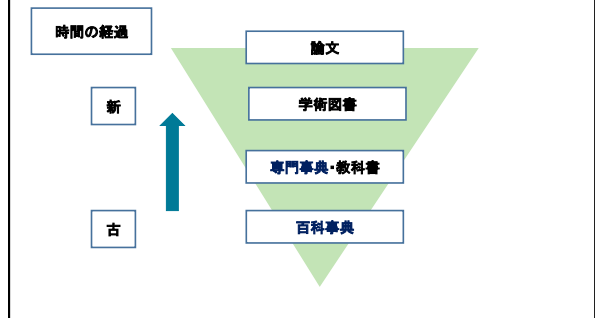
参考資料を活用し、位置、上位下位、関連語を定める



「知識」は一定の方向へ収まっていく
(「新説」による急変化もあるが)



論文を先行研究に基づいて書くので、基礎文献を理解した上、最新情報まで調査して研究を修める



大学レベルの論文の作成

論文とは？

- ① **存在価値**(起承転結を面白く転じるのではなく、問題意識と話題性で読者を獲得)
論文は小説、演劇脚本、漫画等と違い、問題の重大さを以て論理的に発展する。
テーマの研究意義は何か、研究史の中にどう位置付けられるのかを常に意識する。
- ② **発展**(先行研究を批評し、不足・問題点・可能性を指摘し、それに対する仮説を証明)
論文はレポート、報告書、事実纏めと違い、既存の知識に+ α の情報や見解を加えて貢献。
- ③ **立場**(脱個人→客観普遍 誰から見ても同じ事実と論理に基づいていけば同じ結論に到る筈)
論文は感想文、随筆、意見書、社説論と違い「自分がどう思う」ではなく、客観事実。

論文の展開法：以下の方法の1つ(或いは複数)を用いてトピックを展開する

- ① 概説・解説：情報を総まとめして、時間の経過などにそって事実を書いていく。
ただし、自分の視点や書く目的を常に意識する。(単なる報告書に陥りやすい)。
例)日本の1990年代を振り返り概観する。
- ② 分析：複雑な事柄を単純な要素に分解して分かりやすくする。
例)運輸業界の乗客拡大戦略を業種別や企業別に分けて考察。
- ③ 比較：2つ以上の事柄の相違点や共通点を指摘。
例)日米の自動車産業における雇用比較。
- ④ 類推：共通点の指摘から推測をする。
例)アメリカの1930年代の大恐慌と日本のバブル崩壊が非常に類似。
(AとBには1と2の点で共通点がある→おそらく3と4でも同様のことが起こりうる)
- ⑤ 通説の捕捉・修正・論破(仮説の立証)：通説が本当なのか検証する。新仮説の提起・立証。
例)モンローは本当に事故死なのか？

興味有る領域を論文レベルのテーマに絞る

- ① まず自分の課題を整理する。
論文を論理的に展開するには、アウトラインをまず作成する。ただし、いきなりアウトラインを書こうとしても難しいので、まず自分の関心のあるテーマをなるべく詳細に挙げてみる。
- ② 事前調査
課題(自分の研究テーマ)の細かな事にいきなり取り組むのではなく、大枠をつかんでから次に、詳細な事例を大きな枠組みの中で捉えつつ把握していく。網羅的・学問的な思考、即ちある事柄を、概説→詳細、抽象→具体、上位概念→下位概念、と攻めて精確・柔軟に捉える。
- ③ 参考図書(濃縮情報ツール)=百科事典や図鑑、専門事典、教科書などの解説本・事典
例)百科事典：小学館『日本大百科全書』、[Encyclopaedia Britannica](#)、[Americana](#)
専門事典・地域的な事典：『新社会学事典』、『アメリカを知る事典』

→参考図書(濃縮情報ツール)の引き方

- ① いきなり項目を探すのではなく、必ず索引から引く(特に冊子体の場合)。
- ② 調べ方の凡例にさっと目を通し、記号などの意味を確認する。
- ③ バランスの取れた情報を得るために、2種類以上のツールを利用するようにする。

→探していたテーマの概説に加えて参考図書(濃縮情報ツール)から分かること

- ① 自分の関心テーマのメジャー/マイナー度 例)項目の説明が長い=メジャー度が高い
- ② 自分の関心テーマの権威者 (第一人者が百科事典の記事を書く→著作をチェック)
- ③ 自分の関心テーマの主要文献 (ただし、平凡社など多くの日本の百科事典にはない)

学術データベースを使うと、

- ① 冊子体よりも遥かに多くの情報源に瞬時にアクセスできる可能性が大きい。
例)遠方の大学の所蔵調査を簡単にできる。
- ② 出版情報など最新の情報が得られる。本屋のサイトにアクセスすれば即注文できる。
- ③ 記事の内容を画面上で公開するサイトも、記事のコピーを送ってくれるサービスもある。

しかし、インターネット一般(特に個人や団体のホームページに関して)は、

- ① 編集過程を経ていないので、ホームページの中には誤った情報が記載されることもある。
- ② ホームページの作成者は必ずしも中立・公正な立場を取っている訳ではないし、掲載内容に関して専門家・権威者でないことも多い。
- ③ ホームページの内容は刻々と変化する(論文を提出する時に無くなることもある!)。必ずサイトのアドレスと日時をメモしておくこと(普通印刷した時に表示される)。

学術データベース利用のコツ

- ① 検索結果が多すぎる場合は、ノイズを回避するため下位語やフレーズを使う。データベースによっては、論理差(not)、論理積(and)、「追加キーワード」や「年度制限」で数を絞り込める。
- ② 見付からない場合は、関連語や上位語を何回か変えてみる。
例)『三国志』/魏/蜀/呉/劉備、ジョン・レノン/ビートルズ、森鷗外/明治文学
論理和(or)を使い、関連語や上位語を広げて足す。
- ③ 各データベースにおいて、役立つキーワードを丹念にメモする。

論文作成では実行可能な計画を入念に立て、着実に一歩ずつ進む

- ① とにかく計画(長期・中期・月間・週間など)を立てる習慣をつける。
計画やアウトラインなしで「何とかなるさ」と書き始めても、どうにもならない。
- ② メモ魔になる。意識の流れのままにメモを取っておくと、名案が浮かぶこともある。
- ③ 原稿の読み直しには、書くのと同じぐらいの時間がかかることを覚悟する。
- ④ 第三者に読んでもらう。忌憚なく意見が言い合える友人は、研究者にとって人生の宝。

課題

基本文献を探し出す

1. テーマを設定して、参考図書を探す

- A. テーマを決める 自分の興味・関心のあるテーマを言葉で表す。
例) 日本のサンゴ礁の分布変化と温暖化/ 森鷗外について
- B. 分野を特定する アプローチする分野を書き出す。
例) 環境工学 / 文学
- C. キーワードを考える テーマを絞り込んだら、主なキーワードを考える。
例) サンゴ礁・温暖化・日本 / 森鷗外・明治文学
- ◇ 主なキーワードの上位語(広義)、関連語(同義)、下位語(狭義)を書き出す。
例) 環境問題・岩礁・二酸化炭素・石垣島/ 日本文学・近代文学・舞姫

2. 参考図書を引いて、基本文献を探す

- D. 参考図書を探す アプローチする分野の参考図書を挙げる。
例) 地球環境工学ガイドブック/ 日本近代文学大事典
- E. 索引を引く まず索引を引いて、項目および項目が掲載された巻・ページ・記号を書き出す。
例) 「も」から森鷗外を引く → 森鷗外、23 巻、35D / 舞姫、21 巻、801B
- F. 役立つ項目を探す メモから属する項目を確認して役立つ情報が載った項目を選び、執筆者を挙げる。
例) 項目: 森鷗外、執筆者: 磯貝英夫
- ◇ このとき項目中に基本文献の掲載があるかを確認する。
基本文献が掲載されていない場合は、
関連する他の項目(執筆者等)から基本文献を探す。
見つからない場合は他の参考図書をあたる。
- G. 基本文献を確認する 選択した項目に挙げられている基本文献を書き出す。
著者名、書名(あれば出版年)を記入せよ。
例) 書名: 『鷗外森林太郎』、著者名: 森潤三郎、出版年: 1934 年
- H. 文献の所在を確認する G.の資料の所在を確認する。
例) 附属図書館、書庫 B2、5-62||オ||37
- ◇ KULINE やカード目録を使って検索する。京都大学の図書館にない場合は KULINE の
他大学検索機能を使って最寄りの大学図書館を調べる。
(この授業の実習では京都大学の図書館にある文献を検索する)

